

江戸・東京 農業名所 めぐり

江戸・東京 農業名所めぐり



企画・発行

JA 東京中央会
東京都農業協同組合中央会

発売

[社団法人] 農山漁村文化協会

企画・発行



JA東京中央会

発売

農文協

いあいさつ



東京都神社庁庁長

宮西惟道

徳川家康公が江戸の町づくりを始めて四百十年を超え、最近つとに江戸の文化や産業、人々の暮らしを紹介する図書が多く出版され、大きな関心が寄せられています。

平成九年（一九九七）に、JA東京中央会から私共東京都神社庁に、江戸・東京の農業にゆかりある各神社に、農業の屋外説明板を設置したいとお話がありました。

ご存知のとおり、瑞穂の国日本は、農耕文化の発展をきっかけとして今日の経済の繁栄があります。私共神社は、五穀豊穡を祈り各地域の鎮守として農村社会の発展に一翼を担わせて頂いた事から、私共といたしましても、大変ありがたく、その実現に全面的に協力をさせて頂きました。お蔭様で、農業を切り口とした地域の歴史に、皆さん大変興味を持っていただいております。

このたび、『江戸・東京 農業名所めぐり』を発刊され、その歴史を一冊にまとめられることは、農業発展のために活躍された諸先輩、諸先生の軌跡を後生の世代へのメ

ッセージとして受け継がれるなど誠に意義があることと存じます。

本書は、都内の中学校、公立図書館、教育委員会に寄贈されると共に、一般書店でも販売されると聞いておりますが、東京都内、各地域にある農業の歴史を通じて、私共神社の役割も多くの方に理解して頂くことを願ってやみません。

おわりに、この図書の発刊にあたり執筆された方々、関係者の皆様に心から敬意を表しあいさつとさせていただきます。

ごあいさつ



東京都知事

北条 史郎

平成十五年（二〇〇三年）は、江戸に幕府が開かれてから四百年になりますが、日本で初めて全国的な人口統計が作られた一七二一年には江戸は百万都市になっていました。

全国の大名たちは、参勤交代制による江戸在勤中の住まいとして郊外にも屋敷を建て、その広大な敷地の中でお国から取り寄せた野菜のタネを蒔いて栽培を始めました。これが屋敷周辺の農民の間にも広がり、その後、品種改良や栽培方法に工夫が加えられて、練馬大根や滝野川ニンジン、金町コカブ、亀戸大根、コマツナ、馬込半白節成かしなりキユウリなど、江戸（東京）の地名が付いた野菜として全国に広がっていききました。

J A東京グループでは、農業協同組合法施行五十周年の記念事業の一つとして、この『江戸・東京 農業名所めぐり』を上梓されますが、これまでも、東京の農家の先人が残してきた数多くの功績を後世に伝えるため、『江戸・東京ゆかりの野菜と花』、『江

戸・東京暮らしを支えた動物たち』、『東京うど物語』を刊行されており、その熱意に深く敬意を表します。また、これらの本は、児童・生徒が地域の農業や歴史・文化を学ぶ教材として活用できるよう、区市町村の中央図書館や都内の公私立中学校等にご提供いただいておりますことに深く感謝いたします。

現在、日本の農業は輸入農産物の増加や食料品自給率の低下などの課題に直面していますが、都内の各地域では、大消費地東京の立地を生かして、創意工夫しながら農業経営に取り組む農業者がたくさん見られ、大変心強く感じられます。これからも、私たちの生活環境にうるおいと安らぎを与えてくれる緑豊かな農地から、都民の皆さんの食卓に、新鮮で安全な農産物を提供し続けていただくことを期待しています。